カリキュラムに沿った実習

カリキュラムについては各学校のものを参考とする。大まかな目標を下に挙げる。

実習オリエンテーション

実習開始初日に、病院に関する基本的な情報や理念などのオリエンテーションを行い、社会人として節度ある態度や、学校指定の制服や名札の着用を指導する。

臨床実習（8～10 週）の目標

評価・治療計画・治療・治療計画の再考という一貫した治療行為、ならびにそのために必要な記録報告ができ、最終段階では、基本的理学療法をある程度の助言・指導のもとに行えるレベルを目指す。また、他部門や家族との関わりや指導を学ぶ。

１～２週目：

見学主体で病院の環境に慣れる。見学も患者や他部門とのコミュニケーションなど医療従事者として基本的な部分の見学から行う。運動スキルは技術単位項目毎に「見学」より開始し、順次「模倣」「実施」へと段階を進めていく。治療の準備や片付け、車椅子の操作など担当患者の周辺業務から診療に参加させる。認知スキルではカルテの書き方や一日の流れを捉える。

見学は基本的に実習指導者の担当患者とする。また、カルテの作成や実施入力など書類業務の見学も行う。他のセラピストに見学を依頼する場合は業務開始前に許可を取るなどの調整を行う。

２週目～：

技術単位項目毎に「見学」より開始し、順次「模倣」「実施」へと段階を進めていく。評価では代表的な評価（意識障害、上田 12 段階式片麻痺機能テスト等）が指導のもと可能となる。治療は学生を治療補助者として考え、模倣や指導の下で補助として介入させていく。また、認知スキルに関してもその日の状態や変化などを助言のもと捉えられるようになる。

5 週目程度：

十分に見学や模倣、実施を行った患者への簡単な治療への参加が出来るようになる。認知スキルはわずかな助言や指導でカルテの作成が可能となる。また、助言のもと患者の変化に合わせた治療方法の再考を経験する。

5 週以降は学生の状態に合わせて検討していく

臨床評価実習（2～4 週）

患者の評価を項目単位で簡単な指導のもと行えるようになる。評価結果や社会環境を考慮した上で治療計画を指導者の助言のもと立案することができるようになる。余裕があれば治療を体験する。

1、１～2 週目：

見学主体で病院の環境に慣れる。見学も患者や他部門とのコミュニケーションなど医療従事者として基本的なスキルの見学から行う。運動スキルは技術単位項目毎に「見学」より開始し、順次「模倣」「実施」へと段階を進めていく。また、治療の準備や片付け、車椅子の操作など担当患者の周辺業務から診療に参加させる。認知スキルではカルテの書き方や一日の流れを捉える。

見学は基本的に実習指導者の担当患者とする。また、カルテの作成や実施入力など書類業務の見学も行う。他のセラピストに見学を依頼する場合は業務開始前に許可を取るなどの調整を行う。

2、3 週目：

代表的な評価が指導のもと可能となる。また、認知スキルに関してもその日の状態や変化などを助言のもと捉えられるようになる。

見学実習（2 週）

見学を通し、理学療法士とは何たるかを知る。学校で学んだ評価方法を実際の患者に対し行っているところを見学する。また、患者個々に合わせた工夫等を学ぶ。

1～２週：

見学主体で病院の環境に慣れる。見学も患者や他部門とのコミュニケーションなど医療従事者として基本的なスキルの見学から行う。治療の準備や片付け、車椅子の操作など担当患者の周辺業務から診療に参加させる。運動スキルは技術単位項目毎に「見学」より開始し、余裕があれば「模倣」へと段階を進め、患者に慣れる。認知スキルではカルテの書き方や一日の流れを捉える。

見学は基本的に実習指導者の担当患者とする。また、カルテの作成や実施入力など書類業務の見学も行う。他のセラピストに見学を依頼する場合は業務開始前に許可を取るなどの調整を行う。

共通項目

①学生は病院の中ではスタッフの一員としてみられていることを意識し、節度ある言動をとるよう指導する。

附則（施行および改定日）

施行 2011 年 4 月 11 日

改定 2016 年 5 月 16 日

2019 年 6 月 10 日